

第7ゲームについて考える

5-1、4-2、3-3いずれかのゲームカウントで迎える第7ゲームについて考えてみようと思う。ただし、3-3についての考察は別の機会に譲る。

5-1の第7ゲームについては、日頃から不思議に思っていることが一つある。それは、校内での試合だと5-1が覆ることなど滅多にないのに、公式大会ではしばしば目にするとということ。秋の支部大会団体戦の決勝で、門田・北池ペアがやってのけたのは記憶に新しいところであるが、これはコート上にいる選手が全員その試合をこの上なく重要なものと位置づけ、特別な精神状態になっているからこそ起こり得る事件なのだと思う。そしてこれはテニスがメンタリティのスポーツであることの証左でもある。意地悪な言い方をすれば、リードしている選手の慢心や状況判断の誤りと、リードされている選手の絶対に諦めない心の共同作業の賜物である。5-1 down でもまだまだ逆転は可能だという認識、そして5-1 up もまだ試合は終わっていないという認識の重要性は極めて大きい。

では、次に4-2をどんなふうを考えようか。数字だけを見れば up している側がかなり有利に思える。なにせ、up している側が第7ゲームを取れば5-2になり、「一方的」という言葉を使っても差し支えない状況になるのだから。でも down 側が取ればどうだろう。4-3はもう「互角」と言うほかないのだ。つまり、up であろうが down であろうが、4-2で迎えた第7ゲームは、その試合 (set) の分岐点になる重要なゲームだということである。1試合に費やされる数十分間、集中力をコンスタントに維持し続けるのは困難である。だから、とりわけタイブレークや5-4の第10ゲームなどでは、両者がそれを重要なゲームと位置づけ、殊更に集中力を傾けてプレーするわけだけれど、4-2 (up or down) で迎える第7ゲームも同じように重要な意味合いを持っていることを自覚しなければならないのだ。しかも、4-2 (up or down) については、対戦するどちらか一方が (時には両者が)、その重要性を意識していない場合があるということである。

さて、ダブルスの試合を始める。トスに勝って、お前たちは風下、そして日差しを背負うエンドを選んだ。少しだけ有利に試合を始められる。対戦相手はサーブを選んだ。こちらはお前が先にサーブをする。試合は4-2 up で第7ゲームを迎えた。この時、お前たちはどちらのエンドにいるか、またサーブは誰か、以下の選択肢より選び、記号で答えよ。
①風上のエンドでお前のサーブ。②風下のエンドで相手のサーブ。③風上のエンドで相手のサーブ。④風下のエンドでお前のペアのサーブ。⑤風上のエンドでお前のペアのサーブ。

よく考えろ。4ゲームごとにサーブもエンドも試合開始と同じ状態になる。だから、第9ゲームは、第1ゲームと同じエンド、同じサーバーというのが考え方の基本。第8ゲームと第9ゲームは風下のエンドだから、第6・7ゲームは、それと反対側の風上のエンド。サーブは偶数ゲームがお前達のサーブ、奇数ゲームが相手の (サーブが不得意な方の選手の) サーブ。よって、答は③・・・ちゃんと考えただろうなあ。